

# マアナゴ資源調査

福島県水産試験場 相馬支場  
平成15～16年福島県水産試験場事業報告書

## 1 部門名

水産業－資源管理－その他魚種(海)  
分類コード 19-04-48000000

## 2 担当者

根本芳春・石田敏則

## 3 要旨

葉形仔魚(ノソレ)を水産種苗研究所陸上池にて飼育した結果、飼育開始から変態着底までの生存率は60%と非常に高かった。飼育から約1年で平均全長が363mmとなり成長が速いことがわかった。また、雌雄による成長差が見られ、雌の方が大きくなることがわかった。

相馬双葉漁業協同組合新地支所において使用されているアナゴ選別カゴについて、サイズ別選別率を求めた結果、全長340mm以下の魚が選別され再放流されていることがわかったが、選別効果を高めるために、選別機の改良や選別作業の改善が必要と考えられた。

平成15年11月に久之浜魚市場に水揚げされたマアナゴの魚体測定の結果、全長は360～770mmの範囲にあり小型魚の漁獲は見られなかった。また、過去1年間の統計を整理したところ、活魚細が34%、活魚太が22%、その他が45%であった。

平成16年6～12月にかけて、松川浦内および松川浦漁港内においてマアナゴの採捕調査を実施した。全長は283～677mmの範囲にあり、松川浦内では雄の割合が69.6%と外洋で漁獲されるものに比べ極めて高い割合であった。

平成16年4～12月の間に相馬原釜魚市場に水揚げされたマアナゴを大きさ別に5段階に分けて、銘柄別漁獲量および単価を把握した。調査期間を通じて中、大サイズの漁獲量割合が高かったが、8～10月に小が見られ、春と秋に特大が見られた。単価は夏は大型魚ほど高く、秋は小型魚ほど高い傾向が見られた。

## 4 その他の資料等

なし